令和６年度茨城県畜産センター業務実績報告

１　畜産センターで取り組む業務

	中期運営計画の項目	中期運営計画の内容	令和６年度の具体的取り組み状況及び成果
（1）	重点的に推進する試験研究	最近の畜産を取り巻く状況を鑑みて、以下の２点を大きな柱とし試験研究を推進していく。 ①ブランド力強化を支える先端技術等を活用した新品種・新技術の開発 ②持続可能な畜産及び地球温暖化に対応した技術の開発	業務・試験課題については、①16 課題、②9 課題の計 25 課題となっている。試験課題については別紙のとおり。
（2）	成果の普及活用促進	研究等から得られる技術・成果の普及定着を図るため、ブランド化への寄与やコスト等も考慮のうえ、試験設計の段階から事業化や普及実現性等について、関係機関による検討を十分に行う。 具体的には、課題検討会等を開催し、試験開始後においても当初想定した成果があがっているか検証を行うとともに、新たな系統や新品種、種雄牛造成にあたっては、実需者や生産者ニーズを聞き取るなど、求められる特色や能力を把握したうえで必要に応じて試験設計の見直しを行うなど、研究で得られた成果が県内畜産農家の経営に資する取組となっているか常に意識して研究を行うものとする。 なお、得られた成果等については、試験の実施段階からその目的や進捗状況等について随時、ホームページや SNS、広報誌等を活用して情報発信に努めるとともに、関係機関で構成される成果検討会等で普及に移すか否かについて検討を行い、経営上のメリットを生産者に明示しながら、関係機関一体となって、普及に取り組む。	重点分野に係る業務や研究課題に関する調査、検討を行い、その結果を畜産センターにおける業務や研究課題の効果的で効率的な推進に活かしていくため、畜産センターを中心に畜産課や関係機関の担当者による横断的なワーキングチーム（WT）を以下のとおり組織した。 ・常陸牛WT ・常陸の輝きWT ・奥久慈しゃもWT ・飼料・酪農WT ・環境WT ・WT全体検討会 各WTにおいて課題検討会を実施し、成果の普及定着を図るための検討を行った。また、子実用トウモロコシ栽培現地検討会を開催し、技術の普及推進を行った。 ・各WT課題検討会の開催　５件／年 ・各WT検討会の開催　55 回／年 ・現地検討会の開催　１回／年
（3）	技術指導	試験研究により得られた成果の普及定着を促すため、畜産センターは農林事務所と連携のもと積極的に技術指導を行うとともに 、受精卵移植や人工授精等の生産性向上に関する技術及び堆肥化や汚水処理等に関する家畜排せつ物処理技術等についても、必要に応じて畜産課、農林事務所等と連携のもと、生産者への助言を行う。	【研修会、講習会等での技術指導、情報提供】 研修会・講習会等または生産現場において、研究成果等の技術指導、情報提供を積極的に実施した。 ・畜産関係職員向け研修会等　７件 ・野外採卵　43 件

		また、農林事務所や関係団体等が主催する研修会や講習会等の支援を通じて家畜の飼養管理及び飼料作物の生産技術の高度化等を推進する。	・精液推進　111 件 ・外部向け研修会等　38 件 計 199 件 【技術相談】 畜産農家等からの技術相談などに対しては、随時対応し、助言・指導を行った。 ・畜産農家及び畜産技術者（獣医師等）からの技術相談　78 件／年 ・企業及び一般県民からの技術相談　1 回／年 【依頼分析】 自給飼料の分析や家畜ふん堆肥等の分析を通して農家の経営向上に貢献することができた。 ・自給飼料依頼分析　23 点／年 ・家畜ふん堆肥等の依頼分析　103 点／年 ・飼料作物サイレージ共励会への協力　1 回／年 ・分析機器等の外部利用　58 回／年
（4）	人材育成	家畜人工授精講習会や受精卵移植講習会、家畜商講習会等を通じて畜産農家の技術向上を支援するとともに、新規繁殖和牛経営入門講座等の開催支援を通じて新たに和牛繁殖経営を目指す者の育成を図るほか、畜産技術や経営指導を行える人材を育成するため、畜産関係職員を対象とした専門技術研修の実施やインターンシップ等の対応を行う。	家畜人工授精講習会及び、家畜商講習会を開催することにより、農家の技術向上を支援した。 常陸牛共励会や豚枝肉共励会等の審査や講評を行い、県銘柄畜産物の品質向上や畜産農家の技術向上に貢献した。 また、専門技術研修の実施により畜産関係職員の能力向上を図った。 ・家畜人工授精講習会の開催及び開催支援　3 回／年 ・畜産共進会、共励会等における審査　9 回／年 ・畜産関係職員を対象とした研修会の開催　66 回／年 ・インターンシップ等学生の受入　9 名／年
（5）	知的財産権の取得･活用	新たに開発した新品種や新技術については、品種登録出願や特許出願を積極的に行って権利化するとともに、普及活動等を通して現場への技術移転に努め、県内畜産業及び関連産業の振興に役立てる。 今後、さらに激化すると思われる価格競争を勝ち抜き、畜産	種雄牛凍結精液、牛受精卵、系統豚及び地鶏種鶏について、畜産農家等の要望に応え、農家の経営向上及び各銘柄畜産物の安定的な供給に貢献した。 ・種雄牛精液供給本数　3,213 本／年

		経営の安定化を図るためには、常陸牛、ローズポーク、奥久慈しゃもなどの銘柄畜産物を核として、本県畜産物全体の高品質化やブランド化等を進める必要がある。そのため、これらの畜産物生産の基礎となる凍結精液、系統豚、種鶏、牛受精卵等を安定的に供給するとともに、種畜の改良や原種鶏等優良遺伝資源を保存･改良し、畜産物の更なる付加価値向上やブランド力の強化を図る。	・場内供卵牛からの受精卵供給個数　157 個／年 ・農家繋養牛からの受精卵採取　291 個／年 ・系統豚等供給（種豚）　158 頭／年 ・系統豚等精液供給　3,735 本／年 ・地鶏生産用種鶏供給　2,050 羽／年 ・種畜造成登録、牧草品種登録及び特許取得　２件／年 （種畜：稲乃大重、ローズL-4）
（6）	広報	試験研究で得られた成果の迅速な利活用を推進するため、「研究報告」及び「年報」等の発行やホームページへの掲載、学会誌や「畜産茨城」、「農業いばらき」等への寄稿、プレスリリースなどにより積極的に得られた成果の情報発信を行う。 また、畜産に対する理解醸成を図るため、SNS を活用した情報発信や一般県民に向けた出前講座を実施する。	・酪農・畜産物加工体験の実施　585 名／年 ・ホームページ等による情報発信　20 回／年 ・「農業いばらき Web」等への寄稿　３回／年 ・査読付き学会誌等への論文発表（共同含む）　１本／年 ・学会発表（共同含む）　６回／年

２　業務の推進体制

	中期運営計画の項目	中期運営計画の内容	令和６年度の具体的取り組み状況及び成果
（1）	全体マネジメント	試験研究の実施にあたっては、将来の予測が困難な「非連続の時代」を迎えていることを踏まえ、スピード感をもって畜産を取り巻く情勢変化に対応できるよう研究機関である畜産センターが、行政機関である畜産課及び農林事務所、家畜保健衛生所と密接に連携し、試験課題の立案（P）、実施（D）、研究成果の評価・検証（C）、現場への普及（A）の各段階で振り返りを行いながら PDCA サイクルを回し、柔軟に軌道修正を行うこととする。 また、着実に研究成果を上げるため、重点的に推進する研究項目ごとに目標達成に向けた実施計画や KPI を記したロードマップを作成するとともに、PDCA サイクルの中で必要に応じてロードマップの見直しを行う。 更に、畜産センター企画情報室は畜産課をはじめとした行政機関や国立研究開発法人などの外部機関との連絡・調整を担うとともに、肉用牛研究所及び養豚研究所を含めた畜産センター	畜産センター、肉用牛研究所、養豚研究所３所による連絡会議等を開催し、情報を共有しながら試験研究を推進した。 また、研修等で得た知識を活用した勉強会や伝達研修等をとおして、職員全体のスキルアップに努めた。 研究課題については、新規及び継続課題ともにＷＴにおいて検討した。また、県関係機関からなる内部評価委員会及び外部の有識者からなる外部評価委員会を開催した。各委員からの評価結果に基づき各課題の見直しを実施した。 ・畜産センター連絡会議　９回／年 ・試験研究課題内部評価委員会の開催　２回／年 ・試験研究課題外部評価委員会の開催　１回／年 ・ＷＴ全体検討会の開催　３回／年 ・各ＷＴ課題検討会の開催　５回／年

		全体の予算・研究の企画調整を行い、着実に成果を生み出せるよう関係機関一体となった取組を推進する。 　なお、本県畜産が抱える課題に即した試験課題及び効果的な試験設計になっているか検証するため、県関係機関からなる内部評価や試験課題検討会等を実施するとともに、客観的かつ公平な検証を行うため外部の有識者による外部評価を実施する。	
（2）	県民ニーズの把握	本県畜産が抱える課題に対応した試験研究の実施に向けて、畜産課、農林事務所、家畜保健衛生所と連携のもと、試験研究の方向性や個別課題について検討を行うとともに、畜産関係団体や農業経営士協会等からの要請、研修会や講習会、市場等機会を捉えて生産者の要望把握に努めるほか、積極的に実需者等を訪問することで試験研究に対するニーズを把握する。	各ＷＴの開催や畜産関係団体への訪問等により試験課題への要望を把握した。特に、農業経営士協会とは会議の他に研修会を開催し、研究ニーズの把握に努めた。 【農業生産現場】 ・現地試験の実施や畜産関係団体への訪問による生産者ニーズの把握 10 回／年 【生産者組織団体主催の会議】 ・農業経営士等基幹農業者との意見交換会によるニーズの把握 ５回／年 ・畜産関係団体（畜産協会等、常陸牛振興協会、常陸の輝き推進協議会、養豚協会、奥久慈しゃも組合他）の会議等によるニーズの把握 139 回／年
（3）	他機関との連携	先端技術等を活用した技術開発を進めるとともに、限られた予算の有効活用及び職員の技術向上、さらにはスケールメリットを生かした研究を展開するため、国立研究開発法人や大学、民間企業等との共同研究を推進する。	他の研究機関の研究情報の収集や意見交換を通して、連携を強化し、共同研究を推進した。 【共同研究の推進】 ・大学との共同研究推進 ２課題／年 ・国立研究開発法人機関との共同研究推進 ７課題／年 ・他県研究機関との共同研究推進 ５課題／年 ・民間との共同研究・研究協力の推進 １課題／年 【普及組織との連携】 ・試験研究推進・研究成果普及・技術指導における各農林事務所との連携活動 ４回／年

			【行政機関・関係団体との連携】 ・国立研究開発法人研究機関等主催事業の推進会議・ブロック担当者会議の参加・協力　22 回／年 ・畜産関係団体等主催事業への参加・協力　16 回／年
（4）	外部資金の獲得方針	限られた予算の中で効果的に試験研究を行うため、国立研究開発法人や大学、企業等から研究資金に関する情報収集を行うとともに、共同研究の実施やコンソーシアムへの参画など国の競争的資金や企業の研究資金等の獲得に努める。	国、国立研究開発法人及び各種団体等との連携により、受託研究費を獲得した。 ・各種団体の委託研究への応募　２課題／年
（5）	特電事業の活用	限られた予算の中で効果的に試験研究を行うため、国立研究開発法人や大学、企業等から研究資金に関する情報収集を行うとともに、共同研究の実施やコンソーシアムへの参画など国の競争的資金や企業の研究資金等の獲得に努める。	・令和６年度特電課題　６課題／年
（6）	内部人材の育成	生産現場におけるニーズを把握し、畜産センターが担うべき役割を勘案しながら、畜産分野において直面する様々な問題の解決に繋がるよう人材の育成に努める。具体的には国立研究開発法人等の中央畜産研修、依頼研究員制度や短期研修制度等を積極的に活用して、研究員の専門技術・知識習得を図る。また、関連学会や研究会への参加やセンター主催研修会など日頃の職場研修を充実強化し、研究のレベルアップを図る。	国や独立行政法人が主催する研修制度を活用して知識を習得し、研究員のレベルアップを図った。また、学会や研究会に参加し、他機関との交流を進めた。 ・国、国立研究開発法人、独立行政法人等が主催する研修（中央畜産技術研修、依頼研究研修、短期集合研修）及び学会・研究会等　延べ 38 人／年 ・所内セミナー、職場研修会　28 回／年 研究倫理、動物実験、畜産関係職員等、幅広く開催した。

令和６年度 畜産センター試験研究課題一覧　＜検討課題と検討時期＞

担当所室			課　題　名	期間	区分
本所	飼養技術研究室	1	未利用資源の飼料利用を促進するための調査研究	H27～	県単
		2	飼料作物品種選定試験	S58～	県単
		3	高能力飼料作物品種選定調査試験	H26～	受託
		4	子実用とうもろこし（国産濃厚飼料）の安定多収生産技術の開発	R4～6	受託
	繁殖技術・ゲノム研究センター	1	優良な常陸牛増産のためのゲノミック評価に関する試験研究事業	R4～8	特電
		2	常陸牛品質向上のための脂肪酸関連遺伝子と美味しさ成分等との関連性の解明	R3～7	特電
		3	牛の受精卵移植技術普及定着に関する研究	H2～	県単
		4	常陸牛増産のための抗酸化物質投与等による良質受精卵採取技術の開発に関する研究事業	R3～6	特電
	生産技術研究室	1	液状肥料利用促進のための品質安定・簡易分析技術に関する研究	R4～6	県単
		2	豚舎排水に含まれるりん成分の肥料利用についての試験研究事業	R6～9	特電
		3	活性汚泥モデルと新規窒素除去反応アナモックスの利用による畜産廃水処理技術の高度化	R4～8	受託
		4	地鶏供給事業（種畜供給）	H20～	県単
		5	奥久慈しゃもの遺伝子解析を用いた次世代種鶏群育成技術の開発に関する試験研究事業	R3～7	特電
		6	排せつ物管理からのGHGを削減する採卵鶏育雛飼料の研究開発	R4～8	受託
肉用牛研究所	改良研究室	1	後代検定事業	S27～	県単
		2	非ゲノム情報活用による種雄牛繁殖性予測事業	R6～8	受託
	飼養技術研究室	1	高能力繁殖雌牛供給事業	R6～	県単
		2	畜産からのGHG排出削減のための技術開発	R4～6	受託
養豚研究所	育種研究室	1	ランドレース種系統造成試験	H29～R6	県単
		2	大ヨークシャ―種改良普及試験	S45～	県単
	飼養技術研究室	1	系統豚維持試験（ランドレース種）	S62～	県単
		2	系統豚維持試験（デュロック種）	H30～	県単
		3	LW（WL）の供給	R5～	県単
		4	「常陸の輝き」飼養試験に関連したLW生産・供給	R5～R6	県単
		5	高品質な常陸の輝き生産に向けた遺伝子解析技術の開発に関する研究	R5～9	特電